

第 16 回日野市ユニバーサルデザインまちづくり 推進協議会 議事録	平成 27 年 2 月 23 日（月） 10:00-11:07 日野市役所 505 会議室
■出席者	
1. 日野市ユニバーサルデザインまちづくり推進協議会	
会長	竹宮 健司 首都大学東京 都市環境学部 建築都市コース 教授
副会長	小根山 裕之 首都大学東京 都市環境学部都市基盤環境コース 教授
委員	有山 一博 日野市聴覚障害者協会
	佐々木 信行（欠席） ピープルファースト東京
	田辺 邦夫 日野市視覚障害者協会
	望月 晴夫 日野市老人クラブ連合会
	早川 裕子 市民サポートセンター日野
	藤井 恵 公募市民
	藤田 博文 自立生活センター日野
	井上 敏夫（欠席） 日野市商工会
	大場 主雄（欠席） 日野市社会福祉協議会
	島 一喜 独立行政法人 都市再生機構
2. 日野市	
	日野市まちづくり部長 石本 弘一郎
	日野市企画部長 渡邊 博朗（欠席）
	日野市健康福祉部長 田倉 芳夫
3. 事務局 日野市まちづくり部都市計画課	
岡田正和課長・浅川浩二課長補佐・壁巢哉弥課長補佐・大沢百代主任	
■議事	
1 報告事項	
（1）日野市ユニバーサルデザイン推進功労者表彰について	
（2）「心のバリアフリー」職員研修について	
2 質疑応答	
3 今後の予定	
（1）表彰に向けた日程	
（2）次回協議会開催 平成 27 年 5 月 20 日（水）（予定）	
4 その他	

■配布資料

- ・資料 1 募集要領ほか配布物一式（応募用紙 様式 1・2・3）
- ・資料 2－1 「心のバリアフリー」職員研修の実施について
- ・資料 2－2 「心のバリアフリー」研修アンケート集計表
- ・資料 3－1 表彰審査までの今後のスケジュール
- ・資料 4 名簿

■質疑応答

	【報告事項】 （１）日野市ユニバーサルデザイン推進功労者表彰について
委 員	応募要領について、応募用紙に別紙 1・2 とあり、応募はメールでも可能ということだが点字でも可能としてほしい。 私は点字を身近に感じており、点字でも応募できるように認めて受付けてほしい。
事務局	今回、応募用紙の点字の対応はしておりません。申し訳ございません。 次回から改めて「点字でも可」という対応をとらせていただく。 点字で応募された場合、事務局では読み取れないので、何らかの形で読みとれるよう田辺委員や他の方々にご協力いただきたい。
委 員	市の職員に点字を使われている方もいるので、その方をお願いすると良い。 あえて私から発言するが、視覚障害者の方にはかなりコンピューターを使いこなす人がいる。特に若い人は、コンピューターの方が良いと言う人がいるが、私は最低限の使用で漢字の識字の問題もあり、字に対して難しさを感じている。私にとっては点字が公的な文字であり、点字だと一番思いが入る。点字を公的に認めてもらうことがユニバーサルデザインになるのではないかと考えている。 市のいろいろな申請書や請願書、陳情書も点字で受付ける、点字を公に認めるという市制になってほしいと思っている。 そういう意味でも、ユニバーサルデザイン表彰に点字での受付けの対応もしてほしい。
事務局	そのように対応する。
委 員	市の制度全体として、点字対応でも申請書などを受付けられないのか。
事務局	この場でお応えできないが、取り掛かりとして委員のご意見を都市計画課から

	庁内に発信する。
会 長	第1回目としては、すでに動きだしているので、第2回目の応募要領から変更する形で良いか。
事務局	応募に関して点字で対応可能にしていく。
会 長	応募用紙などに第1回の表示がないが、今後も使いまわす意図か。
事務局	本来は年度で区切るのが望ましい。1月から募集を開始し、表彰するのが6月ごろになると年度がまたがることもあり、今回は第1回としている。内部で議論を進めて、次回を第2回とするか、年度で募集するのか検討させていただきたい。
会 長	アルファベットで「PR」という言葉は、一般的な日本語としての取扱いで良いのか。
事務局	ユニバーサルデザインの観点から正しいのか、内部で議論させてほしい。変更になったら改めて説明させていただく。
会 長	この項目の趣旨としては、取り組みを地域に広めて普及していくような「宣伝」という言葉が良いと思う。「PR」という言葉はほとんど日本語になっているが、「パブリック・リレーションズ」であるので検討してください。
委 員	言葉の関係から発言すると、知的障害の方の振り仮名表記についてもあった方が良いのではないか。
事務局	例えば本日の会議資料も、必要とされる委員には振り仮名表記で用意している。振り仮名表記についても点字と同様、庁内での方向性は定まっていないと思う。ご意見を受けて、点字と振り仮名表記の両方を庁内に情報発信していく。 詳細についてこの場では話せないが、何らかの形で報告する。
会 長	今回は第1回目であり、表彰制度自体も今後スパイラルアップしていけば良いと思う。
委 員	(2)「心のバリアフリー」職員研修について 《ビデオ上映のあと、研修講師であった有山委員より感想をいただく》 今回は第2回目の研修実施であった。2時間の研修のうち、前半1時間は聴覚

	障害者の理解を深めるための講義、後半の１時間は手話の実体験をした。時間が２時間では足りないような状況であった。 参加された職員は積極的で、特に男性は楽しんで盛り上がって良い雰囲気であった。次回の研修では、いろいろな方に参加してもらい、ワークショップのような形にしてみたいと思っている。グループを作って、その中に一人聴覚障害者が入って実際に会話を体験するという形で学習ができれば良い。聴覚障害者だけではなく、視覚障害者、知的障害者の方などにもご参加いただいて、車椅子体験も含めて、更に障害者に対する理解が深まれば良いと思う。 昨年１２月の衆議院選挙の際に投票所に行った時、知的障害者への職員の対応があまり良くなく、知的障害者への対応方法を学ぶ必要があるのではないかと感じた。知り合いの職員でも対応はなかなか難しい状況であったので、選挙管理委員会の職員にも研修に参加してもらいたいと思う。
事務局	行政側が考える研修が効果的なのか試行錯誤しているところである。有山委員からのご意見を参考に良い研修制度を確立していきたい。
会 長	今後の研修について、いろいろな障害に理解が深められるよう効果的な研修を考えてほしい。
会 長	次第４に移る。
会 長	【今後の予定について】 今後は４月上旬に、表彰審査図書を各委員にお送りするということだが、その結果（評価票）は返送するのか。
事務局	評価内容結果をご返送いただく方法にするかは検討中だが、応募件数によっては委員が評価しやすい形に工夫する。
委 員	評価についての話し合いは時間を要するので、会議時間内で終わるのか心配している。
事務局	実際の審査には時間が必要であり、応募件数次第で時間内で推薦していただけるように工夫をする。
会 長	次第５に移る。

	【その他について】 《ユニバーサルデザイン推進功労者表彰のシンボルマーク公募について》
会 長	シンボルマークは第1回の審査で、対象となった方、受賞した方に差し上げる若しくは貼っていただくイメージで良いか。
事務局	そのような形が望ましかったが準備ができていないので、次回、応募の方法なども議論いただき、応募方法を決定してから募集をして協議会の中で決定していただきたい。
副会長	シンボルマークの趣旨は、表彰されたことのマークみたいな話に聞こえたが、取り組みそのもののマークということか。
事務局	日野市のユニバーサルデザインの取り組みである。全国的に広めるため、取り組みの一環としてシンボルマークを作っていきたい。シールやパネル、応募いただいた方にも配布するなどの方法で、広めるための手段の一つとして作っていきたい。
会 長	受賞者に差し上げるだけでなく、取り組み全体のシンボルとしてマークを作って、例えばユニバーサルデザインの白書ができた時にはそこに載せるということか。
副会長	次は、使い方の議論になると思う。
会 長	他に何かあるか。
委 員	2点ある。 配った資料について、私たちの目標は手話言語法を制定していただくことである。それに全国の市町村から応援をもらい運動を進めている。委員にも手話とは何かを理解してほしい。先ほど、点字が自分たちの言語であると話が出たが、私たちにとっては手話が言語であり、もっと広めていきたい。 次に質問で、昨年11月に「イオンモール多摩平の森」がオープンしたが、エレベーターの扉に窓がなく不安になったり、スタッフの方たちに手話ができる方が一人もいなくて、筆談器は準備されているが、今後新しい施設ができる際には、きちんと指導していただきたい。聴覚障害者の当事者として私たちが見て、アドバイスしていけるような形にしていけると良いが、いかがか。
事務局	建築物の建設時にユニバーサルデザインを促進しているが、基本的に、一定規

	模以上の建築物については東京都の建築物バリアフリー条例に基づいて審査され、これを日野市のユニバーサルデザイン推進条例が補完している。イオンモールの場合は東京都の建築物バリアフリー条例の届出が必要で、日野市ユニバーサルデザイン推進条例への届出は不要になる。東京都への届出を要するものに、日野市がどのように係っていくかというところがなかなか難しい。ある程度の建築物については都市計画課の開発部門への届出があるので、ユニバーサルデザイン推進条例という別の形での意見として組み込んでいきたい。 今のお話のように、建物の完成後だと意見の反映が難しい。建築中若しくはオープン前に障害を持った方からご意見を伺うなど反映できる仕組みづくりが必要であると認識している。課題として検討させていただく。
委 員	議題とは別件で警察の管轄ではあるが、スクランブル交差点などの音信号についてである。音信号があると私たちは安心して横断歩道を渡れて良いが、夜8時を過ぎると音信号は止まってしまう。夜8時以降も視覚障害者も歩くので、何か工夫できないか。昼間の時間のように長時間音がしていなくても、例えばボタンを押せば「カチッ」と音が鳴る、もしくは2、3秒音が出るだけで良いので、信号が変わったことを示せる工夫をしてほしい。夜の方が危ない。日野市だけの問題ではないが、夜間の音信号に工夫をしてもらいたい。 もう一つ。シティハイツ旭が丘に居住しているが、旭が丘中央公園とファミリーマートあるいはトムスポーツセンターの間の横断歩道のことである。トラックの往来や側道に大型車が駐車して、視覚障害者にとっては非常に分かりづらい横断歩道である。中央公園に来る子どもたちもよく横断し、近くには光の家のグループホームもできて利用者が多い。また、物流センターができるとトラックの交通量も増えるので、何度か警察の方にも設置依頼をしているが、順番や費用の問題があるということである。ぜひ、音信号を設置してもらいたい。この協議会からも意見を言っていたきたい。このユニバーサルデザイン推進協議会に警察関係の方にも出ていただきたい。
事務局	日野市ユニバーサルデザイン推進計画の中で音信号の設置場所は決まっており、指定の場所は警察の方で確実に設置することが決まっている。ご指摘の所は計画に入っていない箇所なので、改めて市の方から警察に話はしたい。
委 員	優先順位はあると思う。ただ、それがそこに住んでいる視覚障害者のニーズに応えているのかというのは疑問に思うところもある。それを、やはり継承してほしい。
事務局	特に光の家や物流施設ができる周辺を先日見て回ったが、道路整備から年数が

会 長	経っておりかなり傷んでいる。視覚障害の方だけではなくて、車椅子の方にも非常に不便であろうと感じている。 日野市の道路の補修計画もあるのでこの場で説明できないが、道路だけでなく信号の設置など、日野市全体として取り組んでいかなければならない問題であり、今後庁内で検討させていただきたい。ただ、音信号の設置については、市ではなく警察で設置するもので、市からはお願いになるが、これを含めて調整していきたい。 他に意見がなければ、第 16 回日野市ユニバーサルデザインまちづくり推進協議会を閉会する。
------------	--